

00	09	03	002	永年保存	起案	平成 年 月 日	決裁	平成 年 月 日
議長	副議長	事務局長	次長	主査	主査	担当	文書取扱主任	

第 19 回 市立病院建替計画等調査特別委員会 会議録

開催年月日		平成20年7月31日(木曜日)	開会：10時00分		閉会：11時22分	
開催場所		第一委員会室				
出席委員		井上、山木、酒井、山口、本間、荒木、堀、田村、議長			事務局	中嶋事務局長
		委員外～窪之内、清水、関藤、大谷、三上、堀田、山腰				田湯次長
欠席委員		渡辺				寺嶋主査
説明員		別紙のとおり				
議件		別紙のとおり				
議 事 の 概 要	1 調査事項について					
	次の事項について、所管から説明を受け、質疑を行い、報告済みとした。					
	(1) 滝川市立病院の改築について					
	2 その他について					
	なし					
	3 次回委員会の日程について					
	正副委員長に一任することとした。					
	上記記載のとおり相違ない。市立病院建替計画等調査特別委員長 井 上 正 雄 ㊞					

平成20年7月30日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘

市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席について

平成20年7月28日付け滝議第73号で通知のありました市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合もありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市長の委任を受けた者

副市長	末 松 静 夫
市立病院長	黒 田 義 彦
市立病院事務部長	東 照 明
市立病院事務部事務課長	鈴 木 靖 夫
市立病院事務部事務課改築推進室長	菊 井 弘 志
市立病院事務部事務課改築推進室主幹	田 中 武 雄
市立病院事務部事務課改築推進室副主幹	配 野 英 夫
市立病院事務部事務課改築推進室主任主事	佐 藤 智 人
市立病院事務部事務課改築推進室主任技師	横 田 和 典
会計管理者兼理事	飯 沼 清 孝
総務部財政課長	吉 井 裕 視
総務部財政課主査	景 由 隆 寛

(総務部総務課総務グループ)

第19回 市立病院建替計画等調査特別委員会

H20. 7. 31(木) 10:00
第 一 委 員 会 室

○開 会

○委員長挨拶(委員動静)

1. 調査事項について

(1) 滝川市立病院の改築について

(口 頭)

2. その他について

3. 次回委員会の日程について

○閉 会

第19回 市立病院建替計画等調査特別委員会会議録

H20. 7. 31 (木) 10:00

第一委員会室

開 会 10:00

委員動静報告

委員長

渡辺欠席。議長出席。委員外議員～窪之内、清水、関藤、大谷、三上、堀田、山腰。北海道新聞、プレス空知、北海道建設新聞の傍聴を許可する。

1 調査事項について

(1) 滝川市立病院の改築について

委員長

きょうは黒田院長に出席いただいている。大変お忙しい中、経営面、診療面、あるいは医師の確保等にご多大のご努力をいただいていることに敬意と感謝を申し上げます。きょうはきのうに引き続き押し迫った委員会だが、院長に現状とその思いを述べていただく時間をとっている。院長の時間が余りないので区切って質問を受けたいと思うのでよろしくお願いします。最初に黒田院長から発言がある。

黒田院長

私の所見とお願いを申し上げます。今医療を取り巻く環境は未曾有の厳しさに取り囲まれている。そんな中で我々は病院の改築に向けての検討を進めてきた。その結果、実施設計の完成までに至った。改築は滝川市立病院の生き残り、存続に欠くべからざるものという考えからである。しかしながら、最終段階に至って社会情勢の変化、停滞を余儀なくされている。マスコミでは滝川市立病院の改築延期、あるいは中止、中断とか報じられており、病院のスタッフも通院している患者さんも私に不安と動揺を訴えているところである。この数年間にわたって職員一同はさまざまな雑音を振り払って生き残り策に必死に取り組んできた。病院機能強化の認定、臨床研修指定病院、IT化の導入、DPC、さまざまな患者サービスの向上、療養環境の整備など数え上げればきりが無い。その結果として現在自治体病院の約7割以上が赤字財政というところ、地方交付税交付金の繰り入れ金のカットもある中でおおむね黒字の経営を続けてきた。一方で国の医療政策は医療費の削減一点張りでその厳しさは増している。医師不足は多くの病院で危機を招いており、医療崩壊の時代と言われているがまさにそのとおりである。滝川市立病院も同様でその荒波の中にもまれている最中である。何とかこの荒波を乗り切って無事な航海に行きたいと必至になってもがいているところだが、ここで船足を止めれば沈没してしまうという感触を持っている。建てかえの必要性については、昨日も東部長から詳しく説明があったと思うので繰り返しは申さないが、今建てかえが中断、中止になると、間違いなく滝川市立病院は朽ち果て沈没してしまう。収支の見込みについて検討することは大切なことと思うが、これは国の診療報酬制度次第で大きく変わることは昨今の例を見ても明らかである。いたずらにこのために時間を費やしてしまうことは、時期を逸して崩壊の道をたどるのではないかと危惧している。過去の滝川市立病院においても歴史的に大きな曲がり角があった。黒字財政にこだわらばかりに総合病院としての機能に欠陥を招いたことである。歴代の院長はこれに大きな苦勞をされた。今でもその影響が響いている。時代の状況もそのころとは異なるが、同じ轍を踏んではいけないと考えている。私の最終的な気持ちとしては、生き残ってこそさまざまな方策が見えてくると信じている。その本質は地域住民の方々が滝川市立病院を必要としているか否かということである。必要であればさらに苦勞を重ねて何とか生き残りを図らなければなら

ない。必要でなければ崩壊するのみである。長期的な視野に立って議員の皆様
の検討をよろしくお願い申し上げて私の所見とさせていただきます。

委員長 時間が余らないので 10 分程度に区切らせていただくが、この機会に院長に聞い
ておきたいことがあれば委員の中で願います。

山 口 ① 自治体病院は住民福祉のために必ず必要と認識している。3 年前から院長
を始め、改築に向けて努力をしてきたということで現在までの状況についてお
聞きしたが、建てかえをして 22 年の 10 月になるのか 12 月になるのかわからな
いが、その先こういうふうにしたいといった決意があればお聞かせ願う。

黒田院長 ② 滝川と砂川の市立病院が同じような時期に建つが、両方がなければこの地
域の住民医療は賄えないと思う。砂川の市立病院と滝川の数ある個人病院との
連携についてどのように考えているか伺う。

② 委員が言われるとおりで、滝川市立病院だけでこの地域の医療を賄うのは
難しいという話は院長同士の話し合いでも出ている。それぞれ連携し合って補
い合い、協力し合って新しい医療に向かって出発していかななくてはならないと
考えている。

① 滝川市立病院は非常に老朽化しており、患者さんの療養環境も非常に悪い。
今は非常に暑く湿気の多い状態だが病室には空調もなく患者さんは汗を流して
療養生活を送っている。一番大切な面は患者さんの療養環境を改善すること
であり、もう一つは病院の近代的な機能を準備して高度医療に向かって行くこ
とである。今の状況では恐らくそれは難しいことであり、もし 2 年後に新しい病
院が建つことになったら、いろんな病院機能の充実を加速して地域住民に信頼
される病院をつくっていくことが私の目標である。

委員長 他に質疑はあるか。

本 間 原料の値段が高く補正をしなければならぬ状況の中で、今やるのか少し延ば
すのかという議論もあり、そこに対する論拠が必要になってくる。今予定どお
りやるのと若干延びた場合の医師確保に関する具体的な問題点について見解を
伺う。

黒田院長 確かに社会の経済情勢は変わってきているが、延ばして 1 カ月、2 カ月後に安
くなるなら待つことに意味があると思うが、その保証はなくそれ以上に金利の
問題、消費税の問題といったことが出てくるとこれ以上に大変なことになる。
先延ばしすることによって 100%景気的な問題が解決されるなら結構だが、先
延ばしすることによるデメリット、医師確保の問題のほうが大きい。今までほ
とんど医局から医師を派遣してもらっており医局に対しては常々状況を説明し
てきたが、これが延期になることで信頼を損なうことになる。全国的にも厳し
い状況で、何とか現状を維持していかななくてはならない。一番危惧しているの
は、医師確保の面で中断、延期によって今何とか維持されている緊張が崩壊す
ることである。

委員長 黒田院長はここで退席する。引き続き、きのう受けた補正予算の説明について
質疑があればきょうに残すということだったので、予定として午前中をめどと
したいがよろしいか。（よし）特にきのうにつけ加えての説明はあるか。

副市長 きんの議論を通して大事業であることから市民周知を何らかの形で図るべきで
はないかという意見も出されたので、東部長も含めて協議をした。臨時会まで
の間に折り込みを実施して、今資材高騰はあるがこういうことで建設したいと
いう思いを含めながら、市民負担、病院収支を含めてやっていけるというよう
な形で市民周知を図るべく打ち合わせをした。めどとしては 5 日の朝刊くらい

委員長
山口

に折り込みできるような体制で臨みたいと考えているので、前段申し上げておきたい。

きのうに引き続き質疑を受ける。質疑はあるか。

① 前々回の委員会のときの説明で若干仕様の見直しを図る場合もあるといったことがあったが、今回仕様の見直しがあったか伺う。

② きんの配られた資料の中で仮設の解体費が若干増加して計上されたが、説明では人件費の部分でのアップはないとのことだった。仮設で増額となると人件費以外で余り考えられないので確認したい。

③ 暮らし・にぎわい事業の補助金が増額になっているが、これは工事の総体価額の増額に伴って補助金も増額したと理解してよいのか。

④ 入札が1回不調に終わって延びているが、工事完成、病院開院までの時間的スケジュールはどのように延びているのか伺う。

⑤ 累積財源過不足の平成27年度の部分で1,730万円の赤字になっている。病院の売り上げからすると年間55億円なので大した額ではないが、この部分は完全に積立金、自己資金がなくなる想定でいくと一般会計のほうにも影響する問題なので、市の財政ともきちんと連携を取ってこういう計画を立ててきているのか、それとも病院の内部だけでつくったものなのか今新タッグ計画も始まるのでその辺を確認したい。

⑥ 前々回のときに電気などの入札の変更もある可能性についての話があったので状況に変化があれば伺いたい。

委員長

きょうで補正予算の関係の質疑を終え、臨時会にかけて実際に公告をするという段階でもう一度特別委員会を開いて入札関係のしっかりした段階のものを報告してもらう予定も考えているので、その点も考慮して答弁願う。

配野副主幹

③ 委員の言われるとおり、事業費が伸びていることも1要因であり、補正予算当時からこの暮らし・にぎわい再生事業については解体や設計費、施設内の通行部分、事務費といったものが対象になるが、一番大きく占めるのが施設内の通行部分でこれは施設内の廊下やホール、エレベーター、階段などの割合が延べ床面積のどれだけを占めるかという案分率になっている。事業費が上がってこの案分率が補正予算時よりも若干上昇したことで伸びているという経過になっている。

東部長

④ 入札時期が予定していたときよりおくれたことでおおむね1カ月くらいおくれると想定している。建物が完成して試運転などの期間も必要なことから平成23年4月ころを開院の時期と想定しているが、業者が決まってから実際にどれくらいの期間で、私のほうとしては最大限の期間を見るが、業者さんのほうでそれらのスケジュールの中でどういうふうに判断していくのか、そういう話し合い、さらには患者さんの移動といったこともあるので、開院の時期についてはそれらのことを詰めていってから判断したい。

⑤ 今回の収支の分については、一定の条件のもとにルールで積算している。院長からの話にもあったが、2年ごとの診療報酬の改定で変わっていくこともあると思うので、先の議会などでも収支の見直しについてどう考えるのかという話もあったが、それらについてはある程度定期的にローリングしながら検証していかなくはないと考えている。今回の分については一定の仮定条件のもとに置きかえてつくっており、財政ともよく協議した中で計上しているところである。残念ながら平成27年度は、一定条件のままでルールどおりいくと1,700万円くらいの財源不足が生じるが、それまでまだ期間があるので全体の

中で毎年努力をして何とか解消していきたい。

⑥ 入札の条件等については、内部協議を詰めていって最終的に決めることになる。基本的に参加者の資格について大きく変える状況にはないと考えているが、電気工事については1回目に1 J Vしか応札がなかったことで、その背景を見ると免震の元請け実績がないことで外したが、外断熱についてもあえて元請けに入れる必要はないのか検討していることを今の時点でお伝えしたい。

田中主幹

① 今回見直したのは内装で、クロスの等級を最低限まで落としたことである。また、内部の犬走りといわれる部分の防水をなくしたり、タイルを貼っている部分をやめたり、電気工事の照明器具を間接照明だったものを直接照明に変更したり、建具ではロール式で考えていた部分をガラスの固定式に変更している。

東 部 長

② 解体工事そのものについては変わっていないが、仮設とその関連する部分について精査して若干の増額が必要と判断して整理したところである。

委 員 長

他に質疑はあるか。

荒 木

先ほど副市長から折り込みチラシの件の話があったが、いいことと思う。ただ、例えば今回増額で提案することの根拠や延期する場合はこういう影響が出るといった柱くらいは今考えを伺えないか。

東 部 長

折り込みなのでどうしても一方的になり、詳しいことまで載せると逆になかなか理解されないということも考えているので、ポイントをお知らせすることになると思う。1つは市民周知をする前にこの予算を成立させなければならないのはなぜなのかということとそのおわびと思う。理由としては延期をした場合はこうこうなので今やらなければならないといったことが載ってくると思う。また、今回増額することで総額がこうなり、それに伴う財源の収支としての病院としての収支の見通しについては何とかやっていける、一般会計の負担については実質的に年間1,330万円ほどふえるが全体の中でやりくりできることで、収支的には増額になるが何とかやっていけるということである。場合によっては今回ふえた要因等についての説明も必要と考えている。きのうから委員会で説明させていただいているポイント、質問のあったところでの疑問のポイントなどについて簡潔に載せさせていただきたいと考えている。最後には、後日、形がこれからのまち懇になるのかどうか決めていないが、詳しい住民説明をさせていただくことも含めて折り込みの中に載せたいと考えている。

委 員 長

他に質疑はあるか。

本 間

P1の事業費比較表の「※情報システム整備費を除く」という部分だが、いつ、どのようにして、どれくらいのものなのか説明願う。

東 部 長

ここであえて除くとしたのは、基本計画書のときにも情報システムの部分は載せておらず、当時の収支計画の中では概数でしかわからないので20年、21年、22年で毎年2億円ずつということで見込みで載せていた。現在はオーダリングシステムを入札制度で行ったことで総額的な部分が確定し、新病院に向けて看護支援システムも導入したいということで、総計的な金額は3億9,000万円弱ということでつかんでおり、今回の収支の中には入れている。

委 員 長

他に質疑はあるか。

酒 井

① 建設コストについて、当初は民間病院並みのコストということで30万円を下回る金額だったが、昨日の資料をもとに計算するとそれを上回る金額となり、私どもが視察した留萌市立病院や深川市立病院に近い金額になっているのではないかと思うが、こうした金額について説明願う。

- ② 昨日、鉄骨・鉄筋について伺ったが、基本計画からの増は鉄筋 3,700 トン、2億 8,179 万円ということで妥当と言えるのかもしれないが、鉄骨は 1,000 トン、1億 7,717 万円でトン当たり 17.8 万円と計算されている。鉄骨の市場価格が 8 万円から 13 万円ということで、各トン当たり 5 万円以上上昇しているが、トン当たりでは余りにも予算として増額が大きいのではないかと申し上げた。東部長は加工なども含めた増額と述べられたが、再度中身について説明願う。
- ③ 鉄の予算増について、9 億 5,000 万円についてはなかなかわからない部分が多い。昨日は市場価格に合わせたとのことだったが、説明としては弱いと思う。77 億 9,442 万円から 9 億 5,000 万円増の理由について、例えばサッシでは幾ら、外断熱では幾ら、設備では幾らなど具体的に教えていただきたい。
- ④ 予定価格を事前公表しない可能性もあると伺ったが、それを理由に昨日伺った総額を入札区分ごとに示すことやそれぞれの増額を示していただきたいという質疑に入札に影響を与えるという理由から答弁されなかった。しかし、道路、上下水道、すべての委託契約などは予算額が事前に知られており、それによって入札が有利になる、不利になるといったことは聞いたことがない。改めて区分ごとの予算額について伺う。
- ⑤ タカハタ建設は 7 月 16 日に新たに元専務が逮捕され、開発局が指名停止を 5 カ月から 6 カ月に延ばした。同様に開発局は中山組、伊藤組土建は調整役であり一般的な官製談合とは違う役割を会社が果たしていたとして 1 カ月ずつ重い 3 カ月としている。この 3 社の指名停止を改めて見直す考えについて伺う。
- ① 建設コストについて、当初は 28 万 6,000 円くらいで何とかやれると、相当シビアな部分で今反省すれば現実をかけ離れていた部分もあると思っているが、ここに来て資材高騰等の影響もあるのは間違いないと思っている。結果的に今の予算でいくと深川などともそう違わないようなことになるが、時点差があるので鉄骨・鉄筋等が急激に上昇しているという価格修正をすればそれらの病院よりまだ低いと考えている。
- ② P2 裏面に参考資料として鋼材の市場における価格というのが載っているが、ここでの鋼材とは H 型鋼 1 種類だけで素材そのものの価格である。したがって H 型鋼を病院の建物として工事するには前段に規定の長さにする、接続部分の加工をする、穴を空けるといったいろんな加工があり、いろんな種類の鋼材、中には特殊なものもあるのでそういったものも含めることになる。材料の部分はあっても加工もあるのでトータルで工事費として上がってくる。諸経費の見方として工事費等々に応じて率に応じて掛けていくので分母の部分であるものの工事費が上がれば諸経費の部分もふえてくることで、そういうものもこの増額には入っていることで理解いただきたい。
- ④ 今回増額補正するわけなので、病院の改築工事費としては総額がわかるということでは全く同じと考えているが、道路などと違うところは、分離発注をするということである。今回はこれからまだ内部の委員会等々で協議をしてどういう形で発注をするということが未定であり、例えば砂川は今まで事前公表だったが今回は事後公表ということやいろんなことを調査中で、場合によっては事後公表になるかもしれないといったことを考えると、予算総額がわかってもそれぞれの内訳がどうなのかは入札前には話すことができないと考えている。入札執行後は予定はこうだった、入札の結果はこうだったということは当然周知させていただく。
- ③ 9 億 5,000 万円の内訳については、余り詳しくあの部材、この部材という

東 部 長

ことでは相当な量なのでなかなかお話しできないと思うが、若干担当から説明させる。

田中主幹

③ 今回、民間並みにということで厳しく査定して積算してきた結果、市場価格に対応していなかったということで根本的に見直しをして再度メーカーからの見積もりを取るとともに採用価格などの聞き取りをし、その価格に切りかえた分としてアップしたものである。9億5,158万6,000円の内訳として物価資料によるものの増額分として3,386万5,000円、残りとしては再度見積もりを取った価格の増額分として9億1,772万1,000円がある。この主な内容として全部を申し上げるわけにはいかないが、見積もりの中身としては照明器具も物価資料に載っているものもあり、それにはないものについては見積もり、設備関係ではダクト類、ボイラーなどが主に見積もりを取っているところである。ボイラー室の機械類などもほとんど物価資料には載っていないので、見積もりで対応しているところである。

東 部 長

補足させていただく。きのうもP2で説明させていただいたが、物価資料に載っているものについては基本的に物価資料により、そうでないものについては見積もりによった。物価資料に載っているというのは、いろんな建物に共通的に使っているもの、例えば鉄骨・鉄筋・コンクリートなどどこでも使われるものが載っている。設備や特殊な物、建具など病院によって規格が異なるものなどについては物価資料では網羅できないので、大きく言うと共通的なもの以外については見積もりによっているということである。電気の銅線や基本的なものは載っているが、関連する照明器具からナースコールなどいろんな設備類は見積もりによっているということである。相対的に言うと見積もりのほうが額としては多いということになる。

副 市 長

⑤ 私どもは要領に基づいて3社を起訴または逮捕の事実を知った日からということで、4日付で報道されて7日付で指名停止をかけている。要領に基づいて審査会議を開いてそれぞれ総合的に判断して指名停止を行っている。基本的に1つの案件で、開発局が変えたからということでの加重をすとかといった考え方は持っていない。現状としては指名停止を総合的に行ったということで今それに加重を加えるとかといった考えは持っていない。

委 員 長

酒井委員、区分ごとと言われたが膨大な量なので全部の説明を求めることは不可能と思うので、その点は了解していただきたい。

酒 井

① H型鋼に限らず鋼材の部分で穴を空けたり、切ったりというのはわかるが、その部分でどれだけ金額が上がったのかというところが見えてこない。一般的にH型鋼というのはほぼ完成されたもので現場において製作したりとか穴を空けたりといったことはあるが、こうしたもので金額がここまで変わってしまうということが理解できない。実はそうではなくて実際の価格としてはこれだけの部分だということで説明されれば理解できると思うが、この辺についてちょっと理解できないのでもう一度説明願う。

② 見積もりの部分が相対的に多いとのことだったが、例えばメーカーに聞き取りする際に幾らだったらできるのかということややっていないかということである。実際に数社から見積もりを取った形でやっているということが担保されるのかどうかということのを伺う。

指名停止の関係については、既に処分を加えていることでこれ以上加えることはないとのことだが、前々回の委員会でも話したように滝川市の指名停止の考え方が悪い方向でとられかねない危険なものと指摘しておきたい。

東 部 長

① 工事費として鉄骨にかかる部分で積算するものについては、材料そのものの値段、工賃等が加わるということである。それと諸経費率というのは、工事費が鉄骨の材料関係が上がって云々すると一定の率でトータルしたものに諸経費を掛けて積算していくので、当然諸経費率の部分もアップになり、それらを含んだ額をここに記載しているので材料単価の分だけではなくて諸経費率等も含めてのアップ分を含んでいる。もちろん加工費等については資材費ほどの値上がりはないが、若干の値上がりはある状況である。

② メーカーからの聞き取り方法だが、基本的には3社見積もりを取っている。その中で実際にどれくらいの価格ということで聞き取りした中で一番安いものを基本的に積み上げしているということである。

委 員 長
本 間

他に質疑はあるか。

P2、今回の見直しの囲みの中の上記以外の9億5,000万円については、さかのぼってでも明確にした上で進んでいかなくてはいけないと思う。基本設計、実施設計の時点でなぜ積み上げられなかったのか。3億5,000万円の補正のときになぜ加味されなかったのか。今になって鉄骨・鉄筋、骨材の値上がり、油の値上がりもあるが、そこが主と言っていたものが2億ちょっとというのはおかしい。9億5,000万円は以前は非常に少なく見積もり過ぎていた。例えばきちんと調べていなかった、それか意図的につまんでいた、それか総工事費の70億を守るがためにやっていたのでないかと思うが、そこをある程度明確にして反省した上で進んでいただきたいので答弁願う。

東 部 長

きのうも説明させていただいたが、本間委員が欠席されていたということで改めてP2を説明させていただく。基本設計のときには何とか民間病院並みの低コストで建てたいということで全国と同規模病床数の病院関係を調べて目標値として平米28万6,000円、面積2万4,000平米ということで70億700万円を出した。実施設計では実際に積み上げをしていったわけだが、メーカーから見積もりを徴収し設計採用価格を聞き取りしたが、その価格に過去の安い取引事例を参考に独自の査定を行い基本設計の目標値に近づけたのが実態である。目標とした70億に何とか近づけたいという根っこはあったが、根拠なしに削ることはできないので過去の取引事例であそこではこれくらいの取引単価があった、それがメーカーから聞き取りをした額からかなり低くても実績があるのだから入れられるのだらうということで、実績の原因の調査をするまでもなく単価だけを見てしまったところに大きな欠点があったと思う。特殊な安い取引については何らかの理由があったのに、実際の数値だけを見てメーカーでは60円と言っているが取引事例があるから40円で入るだろうということでやった。それがメーカー主導の市場形成価格の実態と合っていないということである。したがって実施設計のときに鉄骨云々と話したのは、そういうことで70億700万円、それに実施設計で1億300万円くらいで71億何ぼくらいということだったが、当時急激に鉄骨が上がったということが明確で、物価資料の3月資料でやっていたが余りにこの価格上昇に対応しきれないだろうということで、鉄骨・鉄筋の上昇分については5月の物価資料に置きかえてやるべきということでこの部分だけ置きかえた。したがって前回の6月のときには鉄骨等の値上がりの部分について見直しをさせていただくことで、トータル的には基本計画より3億5,500万円多くなったとの説明をさせていただいたところである。そういうことでやったところが独自に査定し、言うなれば勝手に価格を下げたことが実態に合わないという反省があったので、独自の査定については基本的に今回は行わない

ということで全体的な見直しをしたということである。したがって9億5,000万円の大部分は独自の査定で値切りをしたのが実態になると思う。鉄骨関係について今上がり基調で大丈夫かということがあったので、今回は鉄骨・鉄筋・コンクリートに関しては物価資料によるのではなくメーカーから見積もりを取って見積もりの価格でやったので、今後上昇すれば別だが、今の時点では今の市場価格を反映していると判断している。

本 間
山 口

1割を超える差ということで、今後は十分注意して進めていただきたい。先ほど院長が言われたことで、延期になったり中止になったりすると滝川の医療自体に破綻を来す恐れがあるという大事業である。砂川は41億円補正をした。滝川は2回目の補正で12億と3億で15億円である。果たしてこれで大丈夫なのか。15億円足しても砂川の坪単価に比べるとまだずいぶん滝川のほうが低い。実際にこれで行けるという判断と思うが、砂川と滝川の違いというものがあれば説明願う。

東 部 長

砂川市立病院は基本計画のときは本体工事で幾ら、渡り廊下の部分で幾ら、南館の増築改修工事で幾らということで内訳を公表していた。その基本計画のときの単価でいくと28万6,000円より2割くらい低いと想定していた。その後、それぞれの内訳が出ていないので実際にはどうなのかわからないが、トータルで41億円上積みしているので面積が本体部分だけで3万6,000平米あることで割り返すと11万1千何がしになる。それが全部本体なのか、あるいは渡り廊下、改修部分にもなるのかわからないので何とも言えないが、仮に11万1,000円が全部本体とすると基本計画時に23万円前後と思っているので、それに11万円足して34万円前後と想定している。今回滝川のほうはそれよりも平米単価としては高いということであり、前回の反省点というのは特殊事情を分析もせず一方的に値切りをしたということなので、今回はそれをせずにメーカーさんでどこまでやれるのかという3社見積もりで一番低いところではあるが見積もりによったことで、今回は何とか行けると踏んでいるところである。

山 口

前回、前々回指摘した部分のメーカーの見積書を取って積算しているので妥当な線という感じはするが、できれば砂川が失敗した時点で今のやり方をやっていただければ失敗しなかったのではないかと思う。答弁はいらない。

委 員 長

他に質疑はあるか。委員外議員から何かあるか。

清水委員外議員

① 酒井委員の質疑で分離発注なので区分した場合の予算額を示せないとの答弁だったが、分離された後は道路や下水道、各種委託工事と同じで予算が明らかになったものと同じである。今分離してこういう予算内訳だということを補正予算書に書くとしても、それは分離ではない一括発注の入札と何ら変わりない。今回区分けして示すのは入札に影響を与えて委託や道路については影響を与えないと答弁されるが、実際の入札上はこの2つに差はないのでその答弁はやはりおかしい。9億5,000万円がどういうふうに振り分けられているのかということである。前回の予定価格を出しているのだからここがわかれば透明度が増す。せっかく市民に折り込みで知らせるときに、9億5,000万円がどこに行っただのかわかる説明が必要である。1つは建築工事ではなくて設備や電気が足りなかったのかといったいろんな角度から市民がわかるような説明方法が必要ということで共産党はそこを示すよう求めている。決して入札にマイナスになるようなことはないので、そこにこだわらないで示していただきたい。数字としては総額85億円は積み上げ式なので恐らく区分ごとの小計が出ているので、答弁しようと思えばすぐできる話である。市民周知との関係でも非常に重要な

ので示していただきたい。

- ② 入札の問題だが、15 億円上がって透明・公正な入札がどう行われるかというときに、タカハタ建設は7月8日に最初4カ月から5カ月という重い指名停止を開発局から受ける。その前に滝川市は2分の1短縮をやっている。滝川市が7月7日に決めた後に4から5カ月になったが、それは代表取締役がということでの5カ月である。その後16日にもう一人役員が逮捕されたことで5カ月が6カ月になっている。開発局がタカハタ建設について重くしているのに、滝川市はそういう状況を見て、タカハタについては変えないと。開発局は16日に中山、伊藤の指名停止をそれぞれ4カ月にしている。その理由は調整役なので責任は重いということで短縮するどころか3カ月から4カ月に伸ばしている。16日にそういうものが出されているのに滝川市の指名停止の職員会議は全くそれを無視する。これで今回の入札が公正に行われているとはだれも思わない。今当別ダムの問題でもこの開発局談合については特に出てくる。構造的な問題なのでOBと職員合わせて7名も逮捕されている。ここでこの伊藤組というのはしょっちゅう名前が出てくる。仮にこういう形で職員会議が何もしないで入札を迎えることは非常に問題と思うので委員長である副市長の考えを伺う。
- 委員長 きのう答弁されているが今回は予定価格を公示しないということもある中で、予定価格を先見するような形の答弁を求めるのはいかがなものか。これから公正な競争入札があるので、その辺は答えられる範囲で答弁願う。
- 東部長 ① 6月のときに工事費の予算を初めて計上させていただいたが、総額予算がこうであるということを示したもので建・電・管の内訳は話していない。話をしたのは入札の前に入札をどういう形で行うのかについて公告する前に議員の皆さんにお知らせしたいということで、そこで初めて詳細についてお話しした。前回は予定価格の事前公表だったので、それぞれの建・電・管の金額の内訳がわかったということである。したがって入札制度の公平性、透明性、競争性ということであれば、事後公表ということでの入札制度なら当然事前に価格を公表しないし、事前公表であれば事前に公表することなので、今後事前にするのか事後にするのか詳細を詰めた中で適切な対応をしていくことになると思う。
- 副市長 ② 入札の問題を含めて私どもは要領に基づいてやったということで、その際、今回の談合問題については官主導が強いという判断と北海道経済に与える影響を総合的に判断して指名停止期間を決めていったわけである。制度そのものの指名停止のあり方、制度を含めておかしいのではないかということについては、指名停止の制度そのもの、もしくは入札制度そのものの問題については総務部に属するので総務文教常任委員会で対応できればと思っている。
- 清水委員外議員 ① 事後だから予算額を示せないと言われたが、事前公表の前にはずっと事後公表で予算額が予算書に載ってきているわけで、そのことによって入札が不利益を被るなんてことは絶対ない。なぜなら事前公表までしてやっているわけだから、積算の結果がこうなると示してそれでなお適正な入札がされる時代に予算も示せないというのは全く通らない。事後であろうが事前であろうが分離後の予算を今示すことのデメリットは全くないはずだが、デメリットがあると言われたその理由を明確に述べていただきたい。なぜ聞くかということ9億5,000万円の透明性を市民に示すということである。そこがないと見積もりを取り直したら9億5,000万円ふえただけでは市民には通らない。市民にどうやって説明したらいいのか。入札にかかったらフロッピーやCDで部材表が行ってそれ

に基づいて会社は積算する。例えば委員会にそういうデータの主要なものを示してこれについては見積もりを取り直したとか、これは物価本であるとかいった整理で示すとか、とにかく議員が市民に示しやすいような状況にしていきたいがいかか。

② 副市長に対してだが制度的なことを言っているのではない。私は職員会議のある方から聞いているが、7月7日の指名停止の職員会議には7月5日付の新聞報道は出されていない。7月5日の新聞各紙には何と書いてあったか、これは普通の官製談合ではない、割付表をつくっているのが民間側だと。普通の官製談合では官側が割付表をつくるのであって、天下った民間の社長や専務、部長が割付表をつくって品川さんのところへ持って行きそれでいいということで各社に調整した。それで民側が非常に重たいということで開発局は重くしたという報道がされている。そういう資料も見ないで決めたのもっと検討すべきではないかと言っているだけで制度に1つも文句をつけていない。7日以降に開発局が新たな指名停止をしたわけで、そういう状況変化を経て当然指名停止委員会をもう一回開くべきと言っている。制度の問題ではない。指名停止委員長がどう考えるかで何ぼでもできる。新聞報道で出ているので市民はみんな知っており、そういう中で指名停止については変える気はないということなのか伺う。

副市長

② 指名停止委員会をそういう状況変化を含めて開くことはやぶさかでない。今の意見を含めて私どもとしては1つの案件で加重を加えるということを基本的に今までしたことがないが、違う案件が表れた場合についてはその時点でさまざまな議論があると思う。そういうことを踏まえながら今の指名委員会の中でそういう意見があることは議論の対象にしてみたいと思っている。

東部長

① 制度として予定価格を事前公表する制度もあれば事後制度というものもある。前回は事前公表という部分で行ったということで、それぞれメリット、デメリットはあると思う。これらの部分については入札制度の公平性、透明性、競争性をどう保つかさまざまな工夫をしてきた中でいろんな形が生まれてきたと解釈している。今回、事前公表で行くのか事後公表で行くのかは現在検討中でまだ未定だが、工事は予算の枠内でなければいけないので予算が建・電・管の内訳をしても、その総額というのは予算総額の中でおさまるわけなので、予算総額としては建・電・管を含めてこれだけの中の予定価格ということは推測できるということになると思う。したがって、もし予定価格を事後公表ということになれば、その内訳が予算の段階で建・電・管の内訳が明確になっていれば、これは事前公表したのとほとんど変わらないことになるので入札制度の性格的にいくと違うと考えているので理解いただきたい。

委員長

他に質疑はあるか。

三上委員外議員

副市長に伺う。今度の臨時会で今回積算された部分を議決するわけだが、30年先を見越した我々の判断が30年後の市民にとってどうなるのかということを考えて判断しなければならない。そういった意味で、今回再積算して総事業費が111億7,600万円になるが、これは今の時点で財源を含めて最大の持ち出しと思う。仮に入札が不調が終わった場合、断念すると、これ以上は出せないと理解してよいか伺う。

副市長

私ども、東部長も含めて背水の陣で臨んでおり、各実態、実情、根本から見直した。かつては大きな企業体であれば資材調達力があるという時代背景があったが、今はメーカー主導になってきていることが大きく、調達力もメーカー主

導に変わって市場の変化にスピードがあることで、査定率から含めてさまざまな部分を根本的に見直した中で今回背水の陣でやれるという自信を持って臨んでいるところである。財源、30年、長期展望を含めて私どもとしては大きな事業と考えている。地域医療を守るということ、工事でいけば学校の耐震を含めてさまざまな重要課題があるが、タッグの見直しを含めて改革を進めつつ、生き残り、勝ち残り、かつ地域経済の活性化を進めながら職員一丸となって進んでいくことが私としての責務であると思っている。断念するかどうかとなると、今の段階では行けるという思いなので、病院は地域医療を守るために絶対に必要なものと思っているので、これをさせるために最優先の中でさまざまな改革を含めながら職員一丸となって臨んでいくという姿勢は変わらないので理解願う。

委員長 他に質疑はあるか。(なし)

2 その他

委員長 事務局からあるか。(なし) 委員から何かあるか。(なし)

3 次回委員会の日程について

委員長 臨時会終了後、入札の方法が最終的に決まった段階で公告するが、公告の直前にもう一回特別委員会を開きたいと考えているので、正副委員長にお任せいただいて取り進めることでよいか。(よし) 以上をもって第19回市立病院建替計画等調査特別委員会を閉会する。

閉 会 11:22